

JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)
 発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子
 月1回発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2019年10月21日
 第702号



JR東労組ホームページは
 はこちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

仲間と寄り添い 支え合おう!

台風19号によって被災された皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

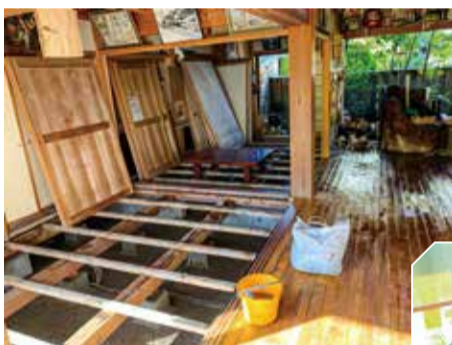
JR東労組中央本部は、10月12日から体制をとり、各地本と連携して被災状況を把握しました。そして、組合員の被災が多い水戸地本と長野地本に、水やカップラーメンなどの支援物資とお見舞い金を10月15日に届けました。また、10月19日、20日には、10月18日現在で確認できている床上・床下浸水等の被害を受けた仙台地本、水戸地本、東京地本、八王子地本、大宮地本、長野地本の組合員宅へ伺い、お見舞い金を届けました。また、未だに断水が続いているいわき地区の仲間には水



▲ 長野地本(10月15日)



▲ いわき支部(10月20日)



▲▶ 長野地本の仲間の支援活動



◀ 10月16日の千曲川



▶ 仙台地本の仲間の支援活動



▲ 東京地本の組合員



▲ 八王子地本の組合員



▶ 仙台地本の組合員



▶ 長野地本の組合員



◀ 水戸地本(10月15日)



各地本、支部、分会の仲間も被災している仲間のもとへ駆けつけ、家屋の泥だし等の手伝いを行っています。一人はみんなのために、みんなは一人のために、これからも困っている仲間へ寄り添い、支え合っています。

JR東労組の組合員・家族で受傷した人はいまでもありますが、家屋の一部破損、床上・床下浸水の被害状況については現在も継続して把握を行っています。

自然災害は激甚化し、鉄道施設の被害も多く発生します。JR東労組は自然災害に備えていきます。今回の計画連休(旅客への案内、復旧に関する体制)、勤務(通勤や待機、休暇、休憩時間など)、職場環境など、具体的に職場で把握していきます。



「たられ
ばを言っ
ているん
ない」と
さい頃か
亡き父に

く怒られた。当時はなぜ「たられば」を言っていけないのか理解出来なかった▼令和に入った日本は、災害が絶えない。特に水害が多いように感じる。このような災害が多い環境の中で自らの命を守るためには、日頃からの災害に対する備えが必要だ▼新宿の本部事務所を考えれば、周辺の避難場所は代々木公園や明治神宮になっており、距離的には事務所から離れた場所に避難することになる▼通勤途中や自宅で災害に遭遇した時にどうしたらよいか。自宅に非常食は準備されているか。今回の台風被害をきっかけに再度我が家も点検しなければいけないと考える。備えや避難場所について家族と話をしなければ、万が一の時に乗り越えられない▼災害に「たられば」は通用しないことを今回の台風被害で感じた▼乗務員をしていた父だからこそ、異常時に命を守る判断を瞬時にしなければならず、そのための備えと訓練が必要であることを「たられば」ではなく普段からきちんとしてほしいと私に教えるようにしていたのではないかと思う。(K・S)